

非常持出品

携帯ラジオ

デマにまどわされないように正しい情報を得るため。予備の電池も忘れずに。



懐中電灯・ろうそく

停電時の夜間の移動に欠かせない。ろうそくは、太くて安定のよいものを。



ヘルメット (防災ずきん)

屋根瓦や看板などの落下物から頭部を守るため。



非常食・水

非常食はカンパンなど火を通さないでも食べられるもの。赤ちゃんがいる場合は粉ミルクなども。



生活用品

ライター、マッチ、ナイフ、缶切り、ティッシュ、ビニール袋など。



衣類

下着、上着、手袋、ハンカチ、タオルなど。



救急薬品・常備薬

ばんそうこう、ガーゼ、包帯、消毒薬、解熱剤、胃腸薬、かぜ薬、目薬、とげ抜きなど。



通帳類、証書類、印鑑

預貯金通帳、健康保険証、免許証など。



現金

紙幣だけでなく、硬貨も用意したい。



浸水の被害を受けた新潟県内の学校の様子

9月1日は「防災の日」

大丈夫ですか？ わが家の防災対策

7月に新潟・福島、福井県で発生した集中豪雨は、堤防決壊による家屋浸水や、がけ崩れなどにより、3県合わせて40人以上の死者・行方不明者といった人的被害や、3万5千棟以上の全壊、床上浸水といった家屋被害など多くの被害をもたらしました。

いま突然、大きな災害に見舞われたとき、私たちは自分たちの命や財産を守ることができるでしょうか？

9月1日は「防災の日」。今一度、わが家での防災対策を点検してみましょう。

災害はいつ、どのような形で発生するかわかりません

災害と聞いて私たちがまず連想するのが地震。大きな地震に見舞われていない富山県に住む私たちに、災害は他人事のように思われるかもしれません。しかし、地震に限らず、火災や台風・集中豪雨による風水害、豪雪など、私たちが災害に遭遇する可能性は十分にあるのです。

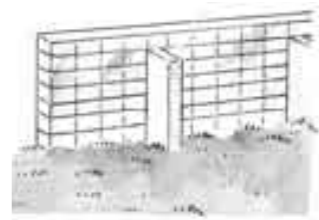
わが家の備え、再点検！

いざというときに大切な命や財産を守るためには、日頃から防災に対する知識をもち、備えを心がけておくことが大切です。

家の中の安全対策は、大丈夫？

家具が転倒しないように固定する、子どもやお年寄りのいる部屋にはなるべく家具を置かない、安全に避難できるような出入口や通路には物を置かないなど、家の中の安全対策を点検しましょう。

○家の周囲の安全対策は、大丈夫？
屋根やブロック塀などわが家の老朽化による補強・修理の必要性がないか、家の周囲に風に飛ばされやすいものが置きっぱなしになっていないかなど、家の周囲の安全対策を点検しましょう。



非常持出品・備蓄品の準備は大丈夫？

避難場所での生活に備え、日ごろから最小限の必需品を準備しておきましょう。

【非常用備蓄品】

自宅でも生活できる時でも、電気・水・ガスに被害が生じたときは復旧まで数日間かかることがあります。非常食や飲料水を最低でも3〜5日分用意しておきましょう。

わが家の避難場所・避難経路の確認を！

次のようなときは、慌てず・落ち着いて、防災関係者の指示や誘導に従って避難しましょう。

- ・市役所や防災関係機関から避難勧告などが出たとき
- ・近所で火災が発生し、延焼の危険があるとき
- ・津波や山崩れ・がけ崩れの危険地域にいるとき

○災害時の避難場所など
市では、災害発生時の市民の皆さんの避難先として次のような場所を指定しています。

- 《主な避難場所》
市内の各学校のグラウンドや公園、野球場など
- 《主な避難施設》
市内の各学校の体育館や各地区公民館などの公

共施設
災害発生時には、災害の種類、規模、場所などの状況により避難場所（施設）をお知らせします。また、避難勧告などの発令前に避難をするときの自主避難場所を決めて

○自主避難の行動も重要です
大雨や地震の発生後、浸水の常襲地、崖・傾斜地などの危険地域にいるときは、市からの避難勧告などを待たずに早めの避難を心がけましょう。

また、高齢者や乳幼児、障害者のいる世帯では「予防的避難」も大切です。

○避難場所・避難経路の確認を
平常時から、避難場所や避難経路、家族間の連絡の取り合い方について

家族で確認をしておきましょう。
避難場所についてご不明の点がありましたら、市総務課までお問い合わせください。



災害から災害弱者を守ろう

高齢者や乳幼児、障害者の方などは、災害時の対応が困難なときが多く、近年の災害ではこうした災害弱者の被害が増加しています。

災害発生時には、わが家の安全を確認するほか、災害弱者のいる家庭にも目を配りましょう。

また、日ごろから地域のコミュニケーションを活発にして、地域内の災害弱者の存在や、災害発生時の救援体制を話し合ってみましょう。

問合せ先 総務課防災担当 (内線212)